

令和 8 年度環境厚生常任委員会視察報告書

1. 参加委員

(委員長) 阿部英光(副委員長) 岡崎進

(委 員) 今井理華、清野匡、新倉真二、早川仁美

2. 説明者

地区社協会長、副会長、ボランティアセンター長、コーディネーター

3. 視察日時

令和 8 年 7 月 2 日 (木曜日) 10 時～11 時 15 分

4. 視察先

まつなみボランティアセンター (松浪コミュニティセンター内)

5. 視察概要

	(担当 早川仁美)
視察先選定理由	政策討議のテーマ「支え合いの地域づくりについて～誰ひとり取り残さない地域社会の構築～」に基づき、本市内のボランティアセンターと包括支援センターの実態把握のため選定した。
内容 ・ 事業概要 ・ 効果、推移 ・ 課題	● 組織 松浪地区社協 S56 年 10 月発足 自治会 13 地区 理事、評議員 (児童養護施設、障害者作業所の代表も含む) 3 部で編成 (高齢、障害、児童) ボランティア事業部 (ボランティアセンター) ● ボランティアセンターの運営について 登録時入会金 500 円 活動料金 1 時間 500 円 (30 分 250 円/1 人) 車の送迎はしていない⇒市社協に案内する 病院への同行支援 (年に数回) ● 活動実績 別表参照 登録 200 依頼世帯 56 活動件数の減少要因⇒ゴミ出しの依頼がおもいやり収集になったため減少 その他には、木の剪定が入っている ● 担い手について 事務スタッフ 7 人 (火～金 AM 電話対応、事務処理) ⇒松浪のみ コーディネーター サポーター 25 人 (13 地区で一番少ない) ● 課題 ① 担い手不足 (常時稼働は 4～5 名、その他は隙間で活動) 常時稼働者は 80 歳以上、平均年齢 69 歳

	大学生も入ったが就職すると活動できなくなる 登録したけど日曜日しかできないなど曜日固定の方は活動に入れない人も2～3人いる 市社協のボランティア大学の研修の効果はあるのか➡松浪地区9人 中学生のボランティアの受け入れは報酬の件で検討し加入したが2年間で終了 ② 断ったもの 家族がいる世帯からの依頼 ③ 地域課題 高齢者が高齢で活動できないため抜ける 若い世代は自治会に加入する必要がないと思っている 行事やイベントで景品を準備、敬老会は旅行などの企画で引き留めている 神社仏閣がない 会員意識がない➡自治会費から会費を納めているため ビーチクリーンにビブスを着用し活動しPR ④ 地域ネットワーク会議の有効性 地域で課題のある人に対することを話している 孤立孤独は発見が出来にくい ⑤ 名簿の扱い 高齢者の女性の方は名簿に名前を掲載したくない ⑥ 要支援者避難計画 公開してほしいのは半分 名簿が来てもその後の避難方法を考えるのは地域 避難所が高齢者や障害者が避難できる場所かどうか
考 察	当地区は、密集した住宅街であり地元の人よりも移住してきた人が多く、出入りも多い地区であり、神社仏閣もないため、他地域のようにお祭りで地域の絆を作っていく事が難しい。 また、近年は若い人が増加しているが、自治会加入に対してメリット感じなく加入率が低迷しており、どのようにして地域づくりをしていったらよいのか課題が大きい。そのため、新たな地域福祉の担い手の発掘も困難で担い手不足の高齢化と減少は深刻である。稼働員数が少ないために一人が抱える件数が多くなっている。 ボランティアセンターの活動は、地域によりさまざまであることは松浪地区だけをヒアリングしただけでも垣間見れた。 市内全域の共通課題、地域ごとの課題を洗い出し、それぞれのアプローチをしていかないと考えると考えるため、地域福祉課、市社協、地区社協、地域包括支援センター及び、地域の事業者も巻き込んで地域課題に取り組んでいく事が望まれる。